

令和 4 年 10 月 26 日
武蔵野市立北町高齢者センター
あり方懇談会（第 2 回）
（第 1 回懇談会資料 7）

北町高齢者センターの現状と課題について
～武蔵野市立北町高齢者センターの運営に関する内部検討委員会報告書
（令和 4 年 3 月 公益財団法人武蔵野市福祉公社）より～

1 設立の経緯

- 吉祥寺ロンロン（現アトレ吉祥寺）のベンチに 1 日中座っている高齢者を見て「何とかしたい、高齢者が気軽に来られるサロン、居場所を作りたい」という山崎倫子先生の思いと「将来、自分の医院の土地に小さな老人ホームを立てたい」という山崎浩先生の「高齢者への思い」から昭和 62（1987）年 10 月、日本初の単独型デイサービスと高齢者住宅が併設された施設として開設され、200 名を超える多くのボランティアに支えられ運営してきた。
- 平成 12（2000）年、介護保険制度の施行と同時に介護保険のデイサービス（通所介護）としての運営に変更。
- 平成 27（2015）年 5 月、倫子先生がご逝去された後、ご夫妻の診療所兼自宅が市に遺贈された。
- 平成 29（2017）年 10 月、遺贈されたご夫妻の診療所兼自宅を活用し、デイサービスを拡充するとともに、子育てひろば「みずきっこ」を新たに開設。高齢者との世代間交流も積極的に行われるようになった。

2 北町高齢者センターの現状と課題について

（1） デイサービス

【現状】

- 定員は平日 30 名（令和 4 年 10 月から 25 名）、土曜日 20 名（令和 4 年 10 月から 15 名）。
- 給食調理の外部委託化や人件費が増加、介護保険報酬改定に係る報酬単価引き下げによる収入減少等の事由により、経常的な収支赤字が続いている。

【課題】

- 現在の設備環境では、重介護の利用者の受け入れが難しく、要介護度の高い利用者を受け入れることでの介護報酬の増収を図ることが難しい。

（2） 子育てひろばみずきっこ

【現状】

- 平成 29（2017）年開設。子育て支援団体「サニーママ武蔵野」に業務委託。
- 多くの親子が来所し、世代間交流も実施され高評価を得ている。
- 来館は 1 日 10 組までとしているが、定員を超える来館があり入口で断ることがあった。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を 1 日 5 組に縮小している。

【課題】

○占有スペースが手狭になり、利用を希望する方すべてに応えられない。

(3) 小規模サービスハウス

【現状】

○令和4年9月現在、5室中1室1名のみ入居中。

○施設の大規模改修を見据え、新規入居者の募集を停止している。

○管理人が住み替えにより退去し、不在となっている。

○管理人不在のため、北町高齢者センター全体の夜間・休日の管理は機械警備の導入及び2階出入口を電子錠に変更で対応し、入居者については、福祉公社職員携帯電話による24時間対応及び救急通報サービスの導入し対応している。

【課題】

○居住者の高齢化。

○施設設備がバリアフリー対応でない。